

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市宮城野障害者福祉センター
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成29年度 9,011人 (前年度比 90.7%) ・平成28年度 9,934人 (前年度比 94.5%) ・平成27年度 10,512人 (前年度比 99.3%)
		《事業》 ○貸館事業：障害者の自主的な活動及び障害者の福祉に関する市民の自発的活動のための施設の提供 その他の援助 ○障害者の福祉に関する講習会の開催その他福祉に関する啓発活動 ○障害者福祉センターの運営管理
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 26,156千円 (24,990千円) ()は前年度決算額 ・その他市が負担した費用 1,817千円 (421千円) ※H29については他施設分含む
		《収入》 ・使用料収入 0千円 (0千円) ・その他収入 500千円 (0千円)
6	利用者の声	《実施状況》 平成20年度から利用者アンケートを実施。今年度の回答件数は101件であり、職員の挨拶・対応・説明・身だしなみ・清潔さ・印象の6項目について5段階評価。全項目が平均4点台であり、高い評価を得ている。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	協定書及び仕様書に則った管理運営がなされている。条例を基に、施設の設置目的を踏まえた基本方針が策定されており、施設内への掲示や所内研修、センター内他法人との合同会議等において職員間、事業者間で共有が図られている。 周辺の商業施設と共同で障害に関する啓発活動の実施、小学校への出前講座等、施設の設置目的に沿った取組みがなされている。	S
II	施設の運営管理体制	センター内他事業所とのミーティングや調整会議を通し、適切な運営が行われている。また、会計経理業務も適正に行われている。個人情報や情報セキュリティについても、研修や事務室内での啓発資料の掲示、記録媒体の保管徹底などセキュリティ向上のための取組みがなされている。 また、災害時における対応策の見直しや行動マニュアルの作成等を通して災害発生時の対応体制を整えている。避難訓練の際には、地域懇談会等への参加を通じ、有事の際の協力体制の構築を図っており、継続した取組みが行われている。	S
III	施設・設備の維持管理	清掃委託業者のみならず、職員も定期的に館内を巡回し、利用者が安全かつ快適に利用できる環境が維持されている。 また、仙台市環境行動計画を基に節電、節水、ごみの減量等に取り組んでいるほか、利用者に対しても、環境に配慮した行動の呼びかけが行われている。	S
IV	サービスの質の向上	全職員を対象に外部講師による接客研修等を通して接客マナーの向上に努めている。利用者アンケートでも4点(満足)以上を得ており、ある程度高い評価を得ている。 利用者への説明を全職員が可能となるよう受付窓口にも業務手順を掲示したり、パンフレットやチラシ類にはルビをつけたり文字を大きくするなど分かりやすく情報提供できるように努めている。	S
V	施設固有の基準	日常的に敷地内の点字ブロックや通路等を点検し、利用者にとって利用しやすくなるよう、施設の維持管理を行っている。また、利用者アンケートに基づいて各種講座を企画する等、ニーズを取り入れた施設運営に取り組んでいる。 貸館団体の取組みを冊子にし、町内会に配布する等の情報発信も積極的に行っている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（仙台市障害者福祉協会）による自己評価》
<p>当センターでは、同居法人合同の「三団体会議(月1回)」「地域ふれあい交流事業実行委員会(月1回)」「エネルギーマネジメント推進委員会(年5回)」等を開催し、各法人の事業に対する相互理解を深めながら、センター全体の事業運営について協議し、サービス向上と地域交流の促進に努めている。また、同居する各法人と連携し、連合町内会や民生委員児童委員協議会、市民センター、児童館、医療機関等と協力しながら、共生社会を目指した福祉事業の推進に取り組んでいる。事業推進にあたっては、指定管理者事業計画書(平成29～33年度)に基づき、以下のとおり取り組んだ。</p> <p>地域交流と障害福祉の促進を図る取り組みでは、今年度で5回目となる「元気まつり」や「みやぎのコンサート(年4回)」、在宅障害者・一般市民向け事業「キャンドル教室他(計年4回)」、障害者週間事業「利用者作品展(年1回)」を開催した。元気まつりでは、貸館利用者や児童館の児童等による発表の他、障害福祉関係施設や地域団体の協力を得ながら、来場者延737名(前年度比+61名)の参加を頂いた。</p> <p>地域との協働による福祉事業の取り組みでは、区民まつりや市民センターまつり、児童館まつりなど地域のイベントに参加し、障害理解促進に向けた事業紹介やパネル展示の他、利用者作品を展示し、延489名の方々に参加いただき、障害福祉に関する啓発活動を行った。その他、地域福祉団体懇談会(年2回)や市民センター懇談会(年2回)、児童館運営懇談会(年2回)に参加し、地域福祉に係る情報共有や意見交換を行い、地域におけるコミュニティ形成と連携に努めた。</p> <p>地域防災促進に向けた取り組みでは、仙台市における避難勧告等の発令名称の変更や水害・土砂災害時の対応に係る見直しを図るため、「災害時における職員行動マニュアル」の改訂を行い、災害時における準備意識の向上など体制強化に努めた。また、「防火管理委員会(年2回)」を組織し、防火・防災について当センター同居法人合同で協議している。その他、災害時に指定避難所において、障害者に対する配慮や軽介助方法を学ぶ「障害者地域サポートセミナー」を近隣中学校で開催した。(中学1年生153名参加)</p> <p>貸館事業に関しては、当センター登録団体の活動活性化と相互交流が図れるよう、「貸館利用団体連絡会(年1回)」を開催し、貸館に関する状況報告や意見交換を行った。また、貸館利用の活性化に向けて、「貸館利用団体ガイド」を活用しながら、近隣町内会や市民センター等に周知活動を行った結果、昨年度の利用件数791件に対して、今年度は831件となり、利用件数を増やすことができた。次年度は、「貸館利用団体ガイド」に加えて、貸館利用案内に係るリーフレットを作成し、広報活動の強化に努め、新規貸館団体の獲得と貸館利用の少ない曜日や時間帯の利用活性化に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>利用者サービスに関する満足度向上への取り組みでは、センター全職員共通の研修として、「サービス管理研修(年1回)」や「衛生管理研修(年2回)」、「安全管理研修(年2回)」の他、利用者障害特性や合理的配慮の相互理解を図ることを目的とした「3障害に関する研修(年3回)」などを実施している。また、利用者アンケートでは、接遇面や施設環境に関する設問全てにおいて、5段階評価中4以上の評価を得ることができた。その中で「居室が温まりにくい」など、空調に関するご意見を多く頂いたことから、専門業者に相談し、機器の調整や設定変更を試み改善を図った。また、体温調節の難しい利用者に対する合理的配慮の一環として、各貸館居室にブランケットを常備した。その他、施設設備においては、経年劣化に伴う不具合が顕在化していることから、迅速な改善に取り組むと共に計画的に修繕を進め、良好な施設の保全に努めていく。今後も適切な事業運営に取り組みながら、障害福祉における宮城野区の拠点として中核的な役割を担っていきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設内の他法人との連携を図りながら、協定書及び仕様書に基づいた適切な施設の管理運営、障害福祉サービスの提供がなされている。</p> <p>東日本大震災による経験を踏まえながら、定期的な防災・避難訓練の実施はもちろんのこと、緊急連絡網の作成や災害時行動マニュアルの作成により、職員間で災害時の対応を共有している点や、地域の懇談会にも参加し、災害時の福祉避難所として町内会への周知を行う等、平常時から地域住民からの理解を得るための取り組みを行いながら災害対策を整えており、地域の障害者福祉の拠点施設としての役割を果たすことを継続している。</p>	S